

作品『Circulation -循環-』について

作品『Circulation -循環-』は、1998年以降の『呼吸法』の作品シリーズの延長線上にある。『呼吸法』では、人だけでなく動植物、無機物にまで広がる〈循環のシステム〉として〈呼吸〉をとらえ、そのイメージを圧縮空気利用の直接的なインタラクティブ性をもつ装置によって、観客に体感させることを試みた。今回の作品『Circulation -循環-』は、〈呼吸〉を「人の口から人の口へとめぐる息」として、人と人をつなぐという視点からあらためて捉え直し、制作したものである。

2001年9月11日の同時多発テロ事件以降、アフガニスタン空爆、イラク攻撃、各地で頻発する自爆テロといった世界の状況が矢継ぎ早に私たちの目の前に差し出され、今もなおそれは続いている。新聞やテレビの片隅で流される死者の数字は、それが政府側やテロ組織のメンバーあるいは一般市民であろうと、それまで生きていた人の時間を私たちに思い起こす力をもはや持ってはいない。その数字は私たちのイマジネーションの貧困さや感覚の麻痺の度合いを表している指標なのかもしれない。ニュースはめまぐるしく新しいものに入れ替わり、まるで私たち自身がその麻痺を望んでいるかのように、いつの間にか再び身近な話題に振り回されている自分をいる。その足下ではテロ対策特措法、有事法制、イラク特措法などを次々と成立させ、伝統や愛国心といった言葉が無反省に繁殖している日本の現状があるというのに…。このような状況の中で、分かりやすい言葉への回収を避けつつ、少しでも立ち止まり考えていく隙間をまず自らの時間に関けようとしたのが、今回の作品である。

作品内で用いられる天井の黒い巨大なファンと壁面のファンは、空気を循環させる所謂ファンでもあり、空から、また回りから私たちに襲いかかる爆撃機のプロペラでもある。あるいはそれは人の生命であり、呼吸する都市や場所の象徴でもある。ファンという一つのオブジェが作品空間の中で異なる相貌を多層的に見せていくこともまた今回の試みの一つである。

呼吸は循環のシステムだ。

ここ日本の一室で、わたしの吸い込む息は、
ここから西に遥かにつづく地で、
誰かが最後に吐き出した息につながっている。

どのようにして、彼、彼女が最後の息を漏らしたのかを
私は知らない。

しかし、私の吸い込む息の中には、彼らの最後の息が混じっている。

ここから、それらの地はそんなに遠くはない。

それらの時はそれほど遠くない。

The breath is the system of circulation.

The breath I take in a room here in Japan is linked to the last breath of somebody
far in the West.

I do not know how it was, when s/he made the last breath.

But I know, that in the air I breathe, there is an element of that breath by him/her.

Those lands are not that distant.

Those times are not that apart.

(作品内に置かれたテキストより)

■基本的作品形態

作品『CIRCULATION -循環-』は、展覧会場一室全体を作品空間と考えるインスタレーションである。天井の巨大なファンと周囲の壁面に設置された 11 個のファンが、その影を床や壁面に投げかけながら、ゆっくりと回転し始める。部屋の明るさが周期的に変化し、波、爆撃機の交信音、息づかいの音が観客を包み込む。

(1) 基本的要素 (構造物)

①天井大型ファン (1 台)

ファンの上部には 3 枚の羽根の影を床に投影するためのライトが取り付けられている。その光の強弱と羽根の回転が組み込みプログラム(PIC)によってコントロールされる。約 5 分間のパターンで明暗と回転を繰り返す。

②壁面小型ファン (11 台)

小型ファンにも、羽根の影を壁面に投影するためのライト(白色 LED)が取り付けられ、明暗と羽根の回転が組み込みプログラム(PIC)によって制御されている。またファンの横

のプレートには、世界の紛争地域の緯度、経度を暗示する「33. 21N, 44. 25E」などの記号が表示されている。

③床面中央モニター・テーブル

鉄製フレーム内に液晶モニターが組み込まれ、ファンの図面的な映像がループ再生される。映像内では緯度、経度と都市名（「Baghdad」「Kosovo」…）が対応して表示される。鉄製フレームには、作品設置都市（佐倉市、あるいは神戸市）の緯度、経度を表示したプレートが貼られている。

④空間全体に流される音響

二つの音素材の合成からなる。一つはコソボ紛争で撃墜された NATO 軍爆撃機から回収されたフライト・レコーダーの音声、パイロットの交信音と呼吸音、交信時のノイズが混ざり合ったもので、もう一つは、海岸の波の音である。ループ再生される。

⑤テキスト

床中央のモニターの横に、以下のテキストが書かれた紙片を提示